

【研究主題】 ビブリオバトル ～本を知り、人を知り、己を知る～

【学校名】

滋賀県立 米原高等 学校

1 本校の概要

本校は今年創立62年を迎える1学年6クラスの学校である。本校の理数科は昭和45年に滋賀県で初めて設置され、当時から野外実習や天体観測の活動を行ってきた。また、平成12年から2年生は生物、化学、物理、地学、数学、情報の分野に分かれてそれぞれの班で課題研究に取り組み、その内容は論文集としてまとめられている。

同じ年には普通科に英語コースが設置され、こちらも当時から英語合宿や各種コンテストが綿密な計画の下、行われてきた。コロナ禍のため中止された年もあったが、現在に至るまで、これらの取り組みは引き継がれている。

以前は、課題研究の発表は理数科クラスのみ、英語コースの各種コンテストは英語コースのみの取り組みであったが、近年普通科クラスも理数科の課題研究発表を聞いたり、英語コースのコンテストに参加したり、活動に参加できる機会が設けられるようになっている。

2 取り組んだ内容

(1) 朝読書

二学期が始まり1カ月半ほど経過した頃、全国秋の読書週間より一足早く、米原高校では朝読書週間を設定し、取り組んだ。朝読書に向けて弘済会助成金で購入した本や文化図書委員が選んだ本をカートに乗せ、生徒の往来の多い場所へ向う移動図書を行い、図書館外で貸出を実施。本校の図書館は教室のある棟から離れており、長い渡り廊下を渡らなければ図書館にたどり着けないため、朝読書の始まる前日の昼休みと当日の朝、文化図書委員による移動図書を実施した。



(2) ビブリオバトル



朝読書最終日のLHRの時間には1,2年生でビブリオバトルを実施した。前半は数人のグループに分かれて、読んで面白かった本、おススメしたい本をそれぞれ紹介し合い、その中から代表者を決定。後半はグループの代表者がクラス全員の前で本を紹介し、一番読みたくなった本を選ぶ、というものである。



時間の終了時には各自振り返りを行い、他者の紹介の様子から学んだことを元に自分のおススメする本を改めて文章で紹介してもらった。普段、同じ教室で過ごすクラスメイトから紹介される本は、同年代からの紹介ということもあり、生徒の興味関心を引くのではないかと期待し、彼らがこの時間に紹介した本で本校図書館に所蔵していない本は、図書館に受け入れ、生徒のさらなる読書活動へつなげている。

3 活動の成果

各クラスのビブリオバトルで選ばれたチャンプ本は、図書だよりに掲載し、図書館で展示を行った。来館した生徒は展示の前で足を止め、本を手に取り友人と談笑する姿が見られた。また、中には借りて行く姿も見られたため、生徒の読書意欲を高めることができた。